令和3年度 県立下館第二高等学校自己評価表

目指す学校像	文武両道を目標に、心身ともに健康で情操豊かな、地域に貢献できる人財を育成する。 教育活動全体を通じ、自発的な学習意欲や自律の心、途中で諦めない精神力を醸成する。 マナー、絆、助け合うことの大切さ等道徳教育を推進する。 教育活動において、学校安全を意識した学校づくりを推進する。				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
成果 進路指導においては、茨城大学、群馬大学など国立大学に10名、法政大学、東京理科大学など私立大学に延べ193名が合格を果たした。また、県立中央看護専門学校、県立つくば看護専門学校など、医療系専門学校に19名が進学をした。その他、短期大学や専門学校を含めると89%が進学をしている。また、就職希望者においても、茨城県警、筑西消防署などの公務員をはじめ、病院等の医療機関や製造、販売など一般企業への就職をすることができた。コロナ禍の中であったが、オンラインを活用した進路講演会やガイダンス、感染予防をしながらの課外授業や模擬試験などを実施した。そして、個別面談などによる個々への対応が、各生徒の適正に沿った進路実現につながったと見られる。また、挨拶の励行や服装に関する指導など、生徒指導面での細かな指導が、落ち着いた学校生活の充実につながった。さらに、学校行事においても、生徒の自主性を促すような取組みを行い、学校生活の充実を図ることができた。	・学習意欲の高揚と学力の向上 ・生徒指導の総合的推進と「心の教育」の充実 ・キャリア教育・進路指導の充実 ・環境教育の充実と特別活動の活性化	各教科の特性に応じ、積極的なITCの活用を含めた授業を推進し、主体的対話・協働による学びの実現に向けた授業を工夫する。特に、「総合的な探究の時間」を充実させ、教科横断的な学力の向上を図り、地域に貢献できる人財育成の基礎とする。公開授業・相互授業参観を推進し授業研究に努め、生徒の実態に応じた選択授業（習熟度別授業等）などを行い、教科指導の工夫・改善・充実を図る。 挨拶や清掃を励行し生徒一人一人と向き合った指導を心掛ける。遅刻や欠席について対前年比10%減を目指し、正しい服装や基本的な生活習慣の確立を図る。また、交通安全教育を推進し交通事故の絶無に努める。さらに、校則の見直しを推進する。 キャリア教育の年間計画に基づき、計画に沿った進路行事を実施する中で、望ましい職業観・勤労観を育成する。また、情報発信に努め、生徒のライフキャリア全体を見通した適切な進路実現を図る。 学校行事や清掃美化および緑化活動を通じて奉仕の心や環境保全の意識を高める。生徒会活動や部活動を通して社会性を高める。筑西市と連携を深め、地域貢献活動を行いながら豊かな情操を養い、明るく活力ある学校づくりを推進する。部活動加入率70%以上を維持することを目標とする。	B A A A		
課題 探究を軸とした学びのスタイル改革への取組みが課題である。課題解決型学習や教科横断的な指導、キャリア教育と連携した指導、GIGAスクール構想による効果的にICTを活用した授業づくりを図りたい。また、「総合的な探究の時間」を通じ、地域と連携した探究活動を充実させ、主体的に課題を見つけ出し解決していく姿勢を養うとともに、地域に貢献できる人財育成を図る。 生徒指導においては、引き続き挨拶の励行や服装指導に取り組むと同時に、「心の教育」や「生きる力」の充実を図り、生徒の人的成長を促していく。	・「道徳」教育の充実と「生きる力」の育成 ・学校安全計画の策定と学校安全の意識の向上 ・働き方改革の推進	自己の尊厳を深く自覚するとともに、善悪を正しく判断し、自分の行動に責任を持てるよう「道徳」教育の充実を図る。 “下館二高3Aプラン(Assess、Act、Achieve)自分を見つめ、行動を起こし、夢を達成する”の推進体制を整備し、進路について考察する学習活動を充実することにより、自己理解を深め「生きる力」の育成を目指す。 関連する教科・校務部・部活動等を含む学校安全計画の共通理解を図ることにより、安心安全な体制づくりをする。 学校安全委員会を年2回開催し、学校安全の状況をチェックしその改善を図る。 学校行事の精選を図る。 業務の効率化を図る。 部活動指導の在り方などの見直しを図る。	B B B		
三つの方針		具体的目標		評価	次年度(学期)への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(長期的目標) 心身ともに健康で情操豊かな、地域に貢献できる人財及び確かな人間力を備え、地域を牽引できる人財の育成		B	主体性の育成を目指した教育活動の更なる推進。
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(中期的目標) 家庭学習の充実と課外授業への積極的な取組促進による進路実現のための学力向上 読書や探究活動等の様々な体験を通じた興味・関心の向上と知的財産の育成		B	地域自治体や病院、学校等との連携を通じ、探究活動やインターシップ等の活動の充実
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	(短期的目標) 長所を生かし、地域に貢献できる人財を目指す生徒 自発的な態度、自立心、諦めない精神力を身につけようと努力する生徒 協働による創造のできる力を身に付けようという意欲のある生徒		A	未来を見すえ、自分の将来とこれからの地域の有様を考えながら、自律や協働を学ぼうとしている生徒

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
国語	学力の向上を図る。	生徒の実態と進路希望に対応した授業内容を展開し、希望者には課外授業を実施する。	B	B	・基礎学力の定着。 ・生徒が主体的・対話的に学習に取り組めるように、ICT教材やアクティブラーニングの手法を活用して、今年度以上に効果的な授業を実施する。
		生徒が主体的に学びを深められるようにアクティブラーニングの授業を展開する。	B		
	小テストを利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは補習を実施する。	B			
	自学・自習の習慣を身につけさせる。	週末や休業中に課題を出し、適宜点検し、自学・自習の習慣を身につけさせる。	B	B	
地歴・公民	生徒の進路希望に応じた学力の向上に努める。	定期考査による生徒の学習状況確認、小テストや確認テストを行い、学習到達度を把握し、今後の指導に生かす。	B	B	・ICT教材を活用して、今年度以上に効果的な授業を実施する。
		生徒の進路希望に対応した授業内容を展開し、大学進学希望者には課外等を実施する。	B		
		生徒の進路実現のための各種模擬試験等に対しては、試験対策・解説授業を展開する。	B		
	広い知識と理解力の向上のために、授業の改善に努める。	教科会を定期的に関き、授業実態の把握と指導方法や授業内容の改善に努める。	B	B	・課題などを精選して早いうちから受験科目として利用できるように意識づける。
	高校教育研究会等の各種研修会に参加し、情報の共有や自己研鑽に努める。	B			
	必要に応じて外部講師等を招き、知識の有用性を認識させるため体験的な学習を展開する。	B			
数学	学力の向上を図る。	生徒のレベルに合った授業展開をし、理解力を上げる。	B	B	一人一台端末が整備され、課題であったギガスクール対応のICT活用授業についての積極的導入を図る。
		課外授業を通して、学力の向上を図る。	B		
		朝学習や小テストを定期的に行い、基礎力の定着を図る。	A		
	家庭学習の定着に努める。	定期的に課題を与え、家庭学習の定着を図る。	B	B	
理科	生徒の進路希望に応じた基礎学力の向上を図る。	生徒の進路希望に応じた授業内容を展開し、大学等進学希望者には課外等を実施する。	B	B	コロナ禍であっても、実験を行えるような環境作りが必要。
		休業中には課題等を与えて、学習習慣の定着を図る。	B		
		実験を適宜実施し、興味・関心を高め、協力しながら学びあうような授業の展開を図る。	C		
	視聴覚教材やICTを活用し、興味・関心の高揚を図る。	ビデオやDVD等の視聴覚教材、またはICTを利用した授業を展開し、生徒の学習意欲を高揚させる。	B	B	
保健体育	体力・理論を実技に生かし、自己の身体を発達・向上させ、その方法を身につけ、生涯を通じて運動ができる能力を養わせる。	生徒の興味・関心の持てる種目を取り入れる。	A	B	生徒の体力の向上も視野に入れた授業計画
		各種目の練習の仕方、ルールや審判の仕方の理解度を確認する。	B		
		学習評価に於いては、観点別に評価する。	B		
		自分に合った練習によって技能や記録の向上を図る。	B		
芸術	個別指導を充実させ、個性的・創造的な表現の能力を伸ばす。	生徒の実態に応じた授業選択を取り入れる。	B	B	ICTを活用した教材・教具について研究し、技能の向上や表現活動を行う。
		課題制作や実技テストを通じて、生徒一人一人の能力や到達度を把握する。	B		
		評価においては、観点別に評価する。	B		
	伝統文化への理解を深め、鑑賞能力を育成する。	作品発表を通して、互いに鑑賞し合う場を提供する。	A	A	
	視聴覚教材等を活用し、名作を鑑賞する機会を取り入れる。	A			
英語	一人一人の能力を把握し、個に応じた学習指導を充実させ、英語の基礎学力の向上を目指す。	生徒の実態に応じた授業展開を工夫し、生徒の学習意欲を喚起する。	B	B	・基礎学力が身につけていない生徒が増えてきた現状の中、指導の焦点をどこに当てるかが課題である。 ・生徒に自主的に学習させる指導や、ICTを活用する工夫が必要である。
		週末課題等を与えて、学習習慣の定着を図る。	A		
		小テストを通して、学習理解度を確認する。	A		
		リーディングマラソン等で洋書を読む機会を奨励し、主体的に英語を学ぶ姿勢を養う。	C		
		英語検定やGTECなど資格取得を奨励する。	B		
		課外授業、土曜講座等を実施して学力向上を図る。	A		
	自学自習の習慣を身につけさせる。	課題やテスト等の到達目標ラインを生徒に示すなどして、自学自習の習慣を身につけさせる。	B	B	
家庭	家族や生活の営みを人の一生との関わりの中で捉え、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てることを目指す。	個々の生徒の実態把握に努め、興味・関心を高める授業展開を図る。	B	B	実践的な態度や能力を身につけさせるための工夫を図る。
		作業や実習を取り入れ学習効果を高めるとともに、ホームプロジェクトで実践的な能力や態度を身につけさせる。	A		
		実習やグループ学習を通じて、男女が協力して創造する態度を育み、キャリア発達を図る。	B		

教科	情報	コンピュータ操作に慣れ、情報の基本的表現処理能力の向上を図る。	ワープロ・表計算ソフトを用いて、簡単な文書作成・データ集計ができるよう知識や技術の向上を図る。	B	B	生徒の学習意欲を観察しながら、課題、評価につなげるように指導する。	
			課題提出を定期的に行うことにより、生徒の理解度を確認する。	A			
			学習評価に於いては、観点別に評価する。	B			
教務	学校行事・日課の適切な運営を行う。	各校務分掌、学年などと連携し、効率的な学校行事の運営に努め、日課を計画的に運営する。	スクールガイドの配布や学校説明会を通して、情報発信に努める。	A	B	・コロナ禍における授業時間確保 ・新学習指導要領に基づく新しい学習評価の見極め ・新生徒指導要録への対応 ・業務の効率化の工夫	
			出張等の授業交換を適切に行えるよう授業交換簿を適切に管理し、授業交換の情報提供に努める。	A			
	授業時間の確保と生徒の学力向上を図る。	学校行事等に伴う特編授業を編成し、授業確保に努める。	各部と連携し、時代に適した校内諸規定の内容に更新できるよう、見直しを進める。	A	A		
			教職員が使用しやすいよう定期的に諸帳簿等を整備し、適切に管理する。	B			
情報管理	校内LANの適正な運営を行う。	校内LANの運用方法やセキュリティの強化に努め、様々な情報の適正利用を推進する。	校務支援システムの運用を推進し、正確な成績処理や個人情報等の整理に努める。	A	A	端末活用に向けた環境整備の促進 ICT活用指導力向上のための研修等の実施が必要	
			生徒の情報機器利用について、有効的で安全な活用が出来るように支援する。	A			
	情報機器を利用した学校業務の効率化を推進し、生徒の適正使用を支援する。	ホームページを適切に管理・運営し、学校内外に対して様々な情報を提供する。	学校業務の効率化を図るため、関連する備品等の適切な管理に努める。	B	A		
			生徒の情動機器利用について、有効的で安全な活用が出来るように支援する。	A			
特別活動	学校行事・部活動を通して望ましい人間関係を形成し、連帯感のある豊かで充実した学校生活を送る。	球技会・文化祭について生徒主体の企画運営を行う。	各学校行事の意義を理解させ、全員参加を目指した指導を徹底する。	A	A	・コロナ禍においての各行事の計画、実施 ・行事の集合実施が困難な場合の代替方法の検討 ・部員数の減少に伴う部活動の精選	
			学校行事を通して、クラスの連帯感を強め、生徒の協調性を養う。	B			
			特別活動を通して、自主性・協調性を養い、協力して諸問題を解決しようとする実践的態度の育成を図る。また「キャリアポート」を活用し、活動の蓄積を行う。	A			
	生徒が部活動に積極的に参加できる環境を作り、部活動加入率80%以上を目指す。	生徒の自主的・自発的な活動が促進できるよう顧問が適切な援助指導を行う。	目標を持ち、最後まで努力することで、成就感や達成感を体験させる。また、その活動を「キャリアポート」に記録させる	A	B		
			生徒の自主的・自発的な活動が促進できるよう顧問が適切な援助指導を行う。	B			
			目標を持ち、最後まで努力することで、成就感や達成感を体験させる。また、その活動を「キャリアポート」に記録させる	B			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立、挨拶の励行に努める。	朝の登校指導において、挨拶の励行・きちんとした制服の着用を促し、より良い習慣を身につけさせる。	職員による校内外巡視指導を実施し、問題行動の未然防止に努める。	A	A	・挨拶を生徒自らははっきりと言えるようにする。 ・状況に応じて自己判断のできる生徒の育成 ・バイク通学者に対する安全実技講習会の実施 ・警察と連携した交通安全活動の実施	
			全校集会・学年集会・HR等でモラル教育を徹底し、規範意識の確立を図る。また、服装・頭髪の正常化を目指し、段階的な指導を行う。	B			
			貴重品の管理及び教室や自転車の施錠を徹底し、盗難防止に努める。	B			
	交通安全教育の推進と事故防止に努める。	全校集会や学年集会・HR・校外登校指導等において、交通マナーの意識高揚を図る。	チャイムによる始業や授業開始の徹底をはかり、時間を守る意識を確立する。	A	B		
			交通講話やバイク実技講習会を実施し、交通規則の遵守と命の大切さを呼びかける。	B			
			地元教育委員会や警察と連携し市内の巡回指導を計画的に行い、問題行動の未然防止を図る。	B			
家庭や地域・関係諸機関・団体と連携を密にして、健全な高校生の育成を図る。	家庭・地域社会・関係機関と連携して、生徒が自ら校則や社会のルールを守り、公共マナーを身につけるための活動をする。		B	B			
			B				
進路指導	生徒が自らが在り方・生き方を考え、主体的な進路選択ができるように支援する。	各年次で進路講演会を実施する。また1年次は夢ナビライブに参加、2年次は大学見学会を実施する。	本校卒業生の受験報告会を実施する。	A	A	・3年生は進路希望に合わせて模試受験ができた。今後多様化する進路希望への対応がより必要である。 ・公務員・就職希望者への指導はできるだけ早めに行う必要がある。 ・コロナ禍であってもインターンシップに変わる体験を検討したい。(医療系で実施済) ・土曜講座の日程の調整	
			医療系出張講座を実施する。	A			
			2年次でインターンシップ(教育・保育系・公務員など)を実施する。				
			ブライトホールの利用を促し、自学自習の習慣の確立を目指す。	B			
	多様な生徒の実態に対応できるキャリア教育指導体制の確立を図る。	進学希望者に対して多様な課外講座を開設し、内容の充実と参加率の増大を目指す。	公務員・就職希望者に対して、指導を早期に行い、意識の高揚と進路実現に努める。	B	B		
			進路情報を充実させる。	「進路の手引き」を発行し、進路情報を積極的に提供する。			B
			「進路だより」を年3回程度発行する。	A			
			進路指導閲覧室の利用促進を図る。	A			
前年度入試結果の情報を活用する。			A	A			
			A				

保健厚生	心身の健康を自己管理できる能力の育成	健康の保持増進に関する情報を発信し、健康に対する意識の高揚を図る。	B	B	・生徒が自主的に健康の保持増進に取り組むような保健指導を行う。 ・引き続き、新型コロナウイルス感染症予防のための環境整備を徹底する。 ・防災意識の高揚を図る。	
		各学年との連絡を密にし、生徒の健康状況を把握することにより、適切な保健指導を行う。	B			
	清潔な教育環境の確保と安全確保に努める	安全・美化点検を定期的実施し、危険箇所・設備の状況確認を行う等、環境整備や環境美化に努める。	A			A
		新型コロナウイルス感染症予防のための環境整備に努める。	A			
		教室内の空気・照度検査、飲料水の水質検査を定期的実施する。	A			
		各委員会活動をととして、校舎内外の環境美化に努めるとともに、美化意識の高揚を図る。	B			
防災避難訓練をととして、防火・防災の意識を高めるとともに、危険回避能力を身につけさせる。	B					
図書	自学学習を支援するために、図書の充実を図る。また、明るく開放的な図書館を目指し、利用の促進を図る。	資料の廃棄及び更新を適切に行い、利用しやすい環境を整える。	A	B	・学習活動における資料収集法（ネット検索の仕方・データベースの紹介等）についての、図書館からの情報発信。 ・各委員のより主体的な活動 ・学年・教科との連携。	
		生徒や職員のニーズに対応できる資料の収集に努め、学習活動や進路実現を支援する。	A			
		GIGAスクールを念頭に、広く確かな学びができるよう資料の拡充に努める。	B			
	生きる力を身につけるための支援として、読書の推進を図る。	生徒・職員の希望図書を購入し、「新着図書案内」を発行する。	B			A
「図書館だより」を発行し、図書館行事や生徒等の読書体験を紹介する。		A				
図書委員会主催の読書会を開催し、他の意見を理解する姿勢を身につけさせる。		A				
渉外	PTA総会など各種行事への保護者の参加率を高め、家庭との連携を密にする。	家庭と学校が連携を図り、生徒一人一人の健全な育成を図る。	A	A	・PTA活動のさらなる活性化 ・PTA総会の出席率(回答率)の向上 ・ウィズコロナ時代への対応 ・会則の見直し	
		PTA総会、各支部会活動を通して各支部の機能が十分発揮できるようにする。	B			
		学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA便りを年2回発行する。	A			
		PTA活動の活性化のため、会員相互の親睦と研修の機会を設定する。	B			
第1学年	基本的生活習慣と規範意識を確立させる。	遅刻・欠席・早退の減少を図るとともに、自己管理意識の育成を図る。	A	A	・生活習慣、規範意識については十分に身につけていると思われるが、さらに生活全般に積極性を持たせたい。 ・進路目標を明確に持たせ、それに向けて努力し続けられる忍耐力・精神力を身につけさせたい。	
		服装・頭髪指導の徹底を図り、高校生らしい身だしなみを身につけさせる。	A			
		挨拶の励行やルール遵守等、規範意識の高揚を図る。	A			
	進路実現のための主体性を高め、学習習慣を確立させる。	授業を大切に、予習・復習等の家庭学習習慣の定着を図る。	B			B
		LHRや進路行事を有効に活用し、自己目標の設定等、キャリア意識の高揚を図る。	B			
		定期考査・模擬試験等の分析を行い、学年の状態を客観的に把握する。	A			
学校行事や部活動へ積極的に参加させる。	部活動の加入を促し、充実した高校生活を送れるようにする。	A	A			
	学校行事等に積極的に参加させ、様々な体験をさせる。	A				
第2学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る。	家庭との連携を密にし、欠席・遅刻・早退の減少を図る。	B	B	・進路未定の者が多くいるので早いうちに明確な進路選択をさせたい。 ・時代に合わせた生徒指導が必要になってくる。校則など生徒指導部とともに見直す必要がある。 ・家庭学習を増加させる工夫が必要である。	
		服装・頭髪指導の徹底を図る。	A			
		挨拶の励行やルール遵守等、規範意識の高揚を図る。	B			
	基礎学力の向上や学習習慣の定着および、進路目標の明確化を図る。	予習・復習等の家庭学習を習慣化させ、基礎学力の定着を図る。	C			B
		LHRや進路行事の有効活用および個別面談を通して、進路目標の明確化を図る。	B			
		定期考査・模擬試験の学習目標を立て、自主的・計画的に取り組む姿勢を養う。	B			
特別活動などに積極的に参加させ、自ら考え行動する姿勢を養う。	部活動・委員会活動などの参加を促し、中堅学年としての自覚を持たせる。	B	B			
	学校行事等に積極的に参加させ、様々な体験をさせる。	A				
第3学年	希望進路の実現に向けた意識を高めるとともに、進路指導の充実を図る。	多様な進路希望や入試方法を把握し、個に応じた細やかな指導を行う。	A	A	・ICTを活用し、生徒の主体的、積極的な学習活動を促進する。 ・新聞や新書を読ませ、思考力、判断力を伸ばす。 ・自己表現の材料として、手帳やポートフォリオに詳細な活動記録を残す。	
		学年・進路指導部・保護者との連携を密にし、計画的かつ組織的に指導する。	A			
		目標設定や学力向上等、生徒の主体的な取り組みを促し、早めの準備をさせる。	B			
	最上級生としての模範となる行動および特別活動への積極的な参加を促し、高校生活の充実を図る。	基本的生活習慣の確立・校則遵守等、規範意識の高揚を図る。	A			B
		部活動・学校行事等での積極的な活動を促す。	B			
		学校生活全体を通して、より良い人間関係の構築を図る。	B			
規範意識の確立を図るとともに、社会人としての資質を育む。	社会のルール・マナーを守る態度を育む。	B	B			
	様々な活動に主体的に取り組ませ、自己の言動に対する責任を自覚させる。	B				

※評価基準 A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない